

寄贈

町民ゴルフ大会 参加費で車イスを寄贈



6月28日(日)に開催された桂川町民ゴルフ大会のチャリティーとして、同大会の実行委員会から桂川町社会福祉協議会に車イスが寄贈されました。同大会は、平成23年に発生した東日本大震災の年からチャリティー大会として開催し、参加費の一部を日本赤十字社へ3年間で総額218,546円の支援、昨年からは桂川町社会福祉協議会に支援を行っています。



▲社会福祉協議会の井上会長(左から2番目)と大会実行委員会の委員。



写真ニュース ダイジェスト!



まちの話題を一挙紹介!
桂川町ホームページ上でも更新中!
<http://www.town.keisen.fukuoka.jp/>

まちの話題は企画広報係まで。
☎65・1085



受賞

健康づくりの模範 食進会名誉会員として表彰

桂川町食生活改善推進会の鳥越元美さんが、全国食生活改善推進員協議会から名誉会員として表彰を受けました。90歳になる鳥越さんは、小学校の教師を退職後、食進会に入会。数年前に介護認定を受けましたがその後認定なしの状態に快復するなど、健康づくりを目的とする食進会の中でも特に模範となる活動を続けてきました。

とりこえもとみ



▲桂川町食進会佐藤会長(右)と共に、井上町長に受賞を報告した鳥越さん(中央)。

話題

少年野球で異文化交流 アルゼンチンの子どもを受け入れ

筑豊地域で活動する「竹友会少年野球連盟」で、海外の少年野球チームを受け入れる取り組みが行われ、同連盟に所属する桂川町野球スポーツ少年団では4人の

ちくゆうかい



アルゼンチンの子どもたちを受け入れました。子どもたちは、野球の練習後、南米料理やそうめん流しを楽しみ、異文化交流を深めました。

けいせんびと

話題の人・団体

嘉穂総合高等学校 サギの観察・研究

「人間らしくないから面白い」

サギの観察に情熱を注ぐ高校生

この数年、春から夏にかけて、寿命区、国道200号線沿いの山の南東側に、白い鳥が多く止まっている光景を目にすることができている。

白い鳥の正体は「サギ」。嘉穂総合高等学校ITシステム科三年生の奥貴樹くんは、科学同好会に所属。この区域のサギの観察・研究を続けている。

年々増えているという同区域のサギは、現在300羽弱が生息している。と見られ、「国道や鉄道が近いことで天敵となるイノシシなどが少ないこと、水田が近くに数多くありエサが豊富なことが、この区域を巣にしている原因だと思えます」と、奥くんは分析する。

し、出産。ひな鳥が成鳥となった9月頃には東南アジア方面へと渡っていくと見られる。

「当たり前前のことですが、サギは人間らしくないから面白いです」。サギの魅力について奥くんはそう話す。「例えば、この区域では6種類のサギが観察されていますが、それらがケンカすることなく一緒に生息しています。そんな所を観察していて面白いんです」

11月7日(土)に行われる文化祭「総文祭」で、サギの研究成果の展示を行う予定の奥くん。卒業後は町外に進学するというが、「進学先でも、その地域のサギの観察を続けたい」と、サギにかける情熱は留まる所を知らない。



嘉穂総合高等学校 科学同好会
おくよしき
奥 貴樹 くん



▲部室として使用している教室から、サギが生息する区域を見ることができる。▼顧問の先生と撮影した多くのサギの写真は、総文祭で展示予定。

